

2024 年度 岐阜協立大学
学内ゼミナール大会 参加論文

ゼミ名 演習Ⅱ（タイガース）

テーマ 本学キャリア支援課のサポート・学生の利活用について

代表者 2220127 伊藤 亘輝

参加者	2220371	荻原	風紗
	3220455	成瀬	愛桜
	2221131	野元	哉汰
	2221270	藤井	朱音
	3220667	山本	愛翔
	2221505	油井	輝星

目次

1. はじめに
2. 研究目的
3. 仮説
4. 研究方法
5. 分析結果
6. 考察
7. おわりに

1. はじめに

近年、大学生の就職活動を取り巻く環境は複雑化し、多様なニーズが生じている。本学のキャリア支援課は、学生の将来を支える重要な役割を担っており、その支援の質や効果を向上させることが求められている。しかし、学生1人ひとりの希望や期待が十分に反映されていない場合、サポートを受ける人数が減り就職活動の質が低下すると考える。

このことから本学のキャリア支援課に焦点を当て、学生がどのように感じているのかを調査することで、現状の課題を明らかにし、支援の質向上に向けた具体的な改善策を提案することにした。

2. 研究目的

調査方法は学生がどのように感じているのかを調査する。

岐阜協立大学のキャリア支援課のサポートをおよび、学生がキャリア支援を受けるマインド向上を実現させるため。（相談、就活イベントの参加など）

本研究の目的は、学生の希望をキャリア支援課に伝え、かつ岐阜協立大学の就職の質の向上を目指す。

3. 仮説

- ・ 学生がキャリア支援課に求めていることを伝えたらサポートを受ける人数は上がるのではないかな
- ・ キャリア支援課に学生を呼びかけたらサポートを受ける人数は増えるのではないかな
- ・ キャリア支援課の活動内容やキャリア支援課の良さが分かればサポートを受ける人は増えるのではないかな
- ・ キャリア支援課の活動内容をキャリア形成の授業でアピールし、さらに特典があればサポートを受ける人数は増えるのではないかな
- ・ 3年生を対象とした就職支援プログラムの強化をすればサポートを受ける人数は増えるのではないかな

4. 研究方法

調査の対象者は目的を岐阜協立大学のキャリア支援課のサポートの向上と学生の就職率向上としているため、本学の学生と OGOB とキャリア支援課の職員を対象として調査を実施した。

分析に用いるデータとして本学の OGOB や友達や身の回りの人々また、キャリア支援課の職員にアンケートおよび、ヒアリング調査を実施した。調査方法として学生は、キャリアサポートに対してどのように感じているのかを調査し、そのデータをもとに分析した。さらに、キャリア支援課にヒアリングを行い、そのデータの分析を深めることとした。

学生へのアンケート内容

- ・ 学年(年齢)
- ・ 性別
- ・ 利用回数
- ・ キャリア支援課を知っているか
- ・ キャリア支援課のサポートを受けたいか
- ・ キャリア支援課のサポートを受けて良かったか
- ・ キャリア支援課に何をしてほしいか
- ・ キャリア支援課の呼び込みがあれば行きたいか
- ・ キャリア支援課の活動内容を知っているか
- ・ キャリア支援課の効果を知っているか
- ・ キャリア支援課の宣伝があれば行きたいか
- ・ キャリア支援課を利用して特典が貰えるなら行きたいか
- ・ キャリア支援課が就職支援プログラム強化をすれば行きたいか

5. 分析結果

サポートを受けた延人数 2,641 人（2022 年度、2023 年度のキャリア支援課ヒアリング結果）

学生へのアンケート（本学生の 25 人調査結果）

- ・年齢 21 歳 9 人
22 歳 10 人
23 歳 4 人
24 歳 2 人
- ・性別 男.18 女.7
- ・活用回数（回） 0 回 4 人
1 回 8 人
2 回 6 人
3 回 1 人
4 回 3 人
不明 3 人

Q1 キャリア支援課のサポートを受けたいか

（はい 19、いいえ 6）

はい↓

- ・就活に困っている時にサポートして頂いたから
- ・就活の相談ができるから
- ・履歴書がほしいから
- ・サポートを受けたくない理由はないがサポートを受けたい理由はない
- ・もっと何をしてくれるか最初から明確に知りたかった

いいえ↓

- ・自分で就活できるから
- ・魅力を感じないから
- ・就職先の役に立ちそうだから
- ・詳しく情報を知る事ができるから
- ・就職活動において支えになるから
- ・友達や先輩がサポートを受けているから
- ・サポートを受けたいがどのようにすべきか分からない

Q2 キャリア支援課を活用してよかったか

（はい 20、いいえ 4、どちらでもない 1）

はい↓

- ・面接練習がためになる

- ・選択肢が広がる
- ・会社について知れる
- ・自己 PR や志望動機についてアドバイスしてくれる
- ・企業について詳しく教えて貰った
- ・しっかり話を聞いてくれた
- ・履歴書を手に入れられる

いいえ↓

・就活の面談をさせてくれとのことで面談しに行ったが、自分のことを話したらあとは頑張ってくださいで済まされた

Q3 キャリア支援課に何をして欲しいか

- ・何もしなくていい
- ・今のままでいい
- ・積極的な職業紹介
- ・話を聞いてほしい
- ・会社について詳しく調べて資料にしてほしい
- ・対応人数を増やして欲しい

Q4 Q3 の回答内容があったら行きたいか

(はい 20、いいえ 5)

Q5 キャリア支援課の呼び込みがあれば行きたいか

(はい 14、いいえ 11)

Q6 キャリア支援課の活動内容を知っている

(はい 15、いいえ 10)

Q7 知っていたら行きたいか

(はい 13、いいえ 12)

Q8 キャリア支援課の効果を知っている

(はい 6、いいえ 19)

Q9 キャリア支援課の宣伝があれば行きたいか

(はい 17、いいえ 8)

Q10 キャリア支援課を活用すれば特典が貰えるなら行きたいか

(はい 19、いいえ 6)

Q11 キャリア支援課が就職支援プログラムの強化をすれば行きたいか
(はい 10、いいえ 15)

6. 考察

アンケート結果を分析した結果、岐阜協立大学のキャリア支援課のサポートを受けた学生の割合は半分であった。サポートを受けたことがない学生の理由として、サポートの受け方がわからない、自分で就職活動を進めているから、キャリア支援課のサポートを受ける魅力を感じない、知らないという意見がみられた。このことから、キャリア支援課のサポートを受ける学生を増やすためにも、キャリア支援課の活動を知ってもらうことが重要であり、魅力を学生に発信していくことが重要と考える。

そして、キャリア支援課のサポートことがある OB, OG にアンケート結果から多くの学生がサポートを受けて良かったとの意見が多くあった。意見として、面接の練習を手伝ってくれる、自己 PR や志望動機のアドバイスをしてくれた。進路の選択に幅ができた、など良い意見が多くあった。従って、キャリア支援課のサポートを受けることで就職活動に余裕ができ、より良いものにする事ができることが、アンケート結果から読み取れた。

また、サポートを受けるきっかけとなるような特典の配布や、就職プログラムの強化をすることはサポートを受けたい人が増えることにつながると考える。就職活動で利用できるような文房具用品等、今まで利用する予定のなかった学生もこれをきっかけに、サポートを受けるモチベーションが高まり、さらに就職プログラムを強化することで、一度受けた学生の満足度が上がり再度サポートを受けるようになり、利用回数が増えるのではないかと。

7. おわりに

本研究から、本学の学生におけるキャリア支援課のサポートを受ける姿勢や満足度が明らかになった。多くの学生は、自身で就職活動を進めるためにキャリア支援課のサポートを受ける必要性を感じないと回答していたが、就職先に関する具体的な情報を得られた、就職活動において支えになると感じている学生も一定数存在した。

また、友人や先輩がサポートを受けているため関心を持っている学生も見られたが、具体的な使い方がわからないことがサポートを受けるハードルになっていることがわかった。

キャリア支援課のサポートを受けた学生の中には、面接練習や自己 PR のアドバイスを役立てている一方で、希望していた支援が十分に提供されなかったという不満も一部存在した。さらに、キャリア支援課に対しては「話を聞いてほしい」「企業情報の詳細を調べてほしい」「対応人数を増やしてほしい」といった具体的な要望が寄せられた。

これらの要望に応じることで、より多くの学生にとって、キャリア支援課のサポートを受けやすくなり、サポートを受ける学生数がより高まることが期待できると考えられる。

学生の要望にアジャストすることで、より多くの学生にとってキャリア支援課のパフォーマンスがさらなり、サポートの向上が期待できると考えられる。

全体として、キャリア支援課の支援が、学生の就職活動において有意義であり続けるためには、学生が求めるサポートをより明確に把握し、具体的で個別的な支援を行うことが重要であると考えられる。また、延べ全体数 2641 名の中の 25 名の調査であったため、次

回の課題として調査数を増やし精度を高めることとしたい。